

会 議 録

会議の名称	平成22年度第2回健康づくり推進協議会	
開催日時	平成22年10月28日(木) 午前10時～午前12時	
開催場所	清須市役所 本庁舎 第二会議室	
議題	1 開会 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・清須市の現状について ・アンケート調査結果について ・「健康づくりを考える会（ワークショップ）」について ・課題整理・推進すべき方向性について（意見交換） ・その他 	
会議資料	会議次第 資料1 清須市の現状 資料2 健康に関するアンケート調査報告書 資料3 「健康づくりを考える会」まとめ 参考資料 団体ヒアリング調査票	
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開	
傍聴人の数 （公開した場合）	0人	
出席委員	加藤委員、深尾委員、小川(禎)委員、太田委員、川島委員、山内委員、関委員、小川(久)委員、渡邊(靖)委員、村上委員、福島委員、奥山委員、伊藤(千)委員、木村委員（師勝保健所健康支援課 谷川課長代理出席）	
欠席委員	山口委員	
出席者	(市)	大鐘部長
	(助言者)	岡本
	(他)	(株)サーベイリサーチセンター(山村、宮本)
事務局	〔健康推進課〕成田課長、田中主幹、森川課長補佐、武居副主幹、古川主任主査 〔高齢福祉課〕寺社下係長	
会議の経過 《要旨》 1 成田課長あいさつ 本日の議題に基づき協議をお願いしたいと思います。 深尾会長 あいさつ 議事進行につきましては、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。 議事に入ります前に、本日の会議録署名委員の指名をいたします。関委員と伊藤委員を指名しますのでよろしくお願いいたします。		

助言者 岡本先生あいさつ

ワークショップは面白く、新しいアイデアだと思う。施策や対策をつくる時、上の人が集まって会議室で行うことが多い。住民の生の意見を聞き対策を考えていくという意味では、ワークショップは非常に意義深いことだと思う。最近、どこかに焦点を当てて施策をつくることが多いが、それぞれの年齢層に対応した対策をつくってけるとよい。若者の生活習慣が問題なので、若者の意見を聞けると、よりよいものができるのではないと思う。ワークショップは私自身勉強になり、楽しませていただいた。自分の意見が行政に活かされると住民のモチベーションが上がり、住民と行政の間隔が狭まり、お互いがうまくキャッチボールができるようになるので、こういうような会を何度も行い、住民の思いを知り、対策に活かせるとよいと思う。

2 清須市の現状について

事務局から資料説明…資料1

3 健康に関するアンケート調査結果について

事務局から資料説明…資料2

4 「健康づくりを考える会（ワークショップ）」について

事務局から資料説明…資料3

5 課題整理・推進すべき方向性について（意見交換）

小川(久)委員：健康づくりリーダーをしている。今までは、教室の皆さんに講演会の情報など行政からの情報を案内してきたが、これからは住民の意見を聞き、市民と行政のパイプ役として努めたい。また、納得して教室に参加してもらえるように、言葉面だけの誘いかけではなく、こういうふうによくなったという声かけを心がけたい。

渡辺委員：声かけをしないと講演会等に出こないので、行政で計画をたてて声かけを行ってほしい。

加藤委員：先進国で寿命を縮めている三大原因である過食や喫煙の問題を、いかに皆で協力してやっていくか。健診受診率について、健保組合は努力目標をたて、声かけをするので60%を超えるのは可能だが、国保は30%程度となっている。これは特定健診の曖昧さにあると思う。メタボリックシンドローム予防と言われても、それが自分の健康につながっていくというメリットが分からない。以前は、がん検診と一緒に受けられた。健診は少し嫌だけど、がんの早期発見につながるのなら、と思い健診を受けていた。特定健診のみだにご褒美がないので、受ける気が起きないのではないか。がん検診を一緒に行ったり、予防医学やためになる話が聞けるなどご褒美をつけて、受診率を上げる方策を考えないといけないと思う。

太田委員：健康は個人の問題。がんと診断されると治る薬がないので、気持ちが晴れない。がん検診は良し悪しだと思う。

村上委員：ワークショップの意見は非常に参考になった。現在会社で行っていることで、参考になると思うことを紹介する。まだ参加者は少ないが、30歳代をターゲットに夫婦で参加してもらい、食事に関する取り組みをしている。それから、転化点となっている35歳に対する取り組みを行っている。さらに、新入社員には3食バランスのよいものを食べるように言っている。また、禁煙宣言をさせて、成功したらちょっとした報酬を与えている。

関 委員：男性に前立腺がん検診を受けてもらえるよう、行政からもPRするなどしてほしい。

伊藤委員：イベントをしても若者が来ない。広報に載せても見ないので、もっと宣伝できるとよい。若者も参加すれば喜んでくれているので、小さい活動でも回数を増やしてやっていかないとと思っている。

山内委員：1つになって、こういうふうだからこれが健康に結びつく、という提示の仕方を工夫する必要があると感じる。健康に関することは、これを見れば一目瞭然という計画をつくる。皆が関心を持って、具体的で分かりやすく、納得できる言葉で書かれた計画ができるとよい。

川島委員：皆、健康であることが幸せだということを忘れがち。自分が病気になった時に、周りにも負担がかかるということを知り、優しい気持ちから健康に対して取り組めるような呼びかけをしてほしい。

福島委員：検診を受けるのは怖いけど、大腸がんを早期発見することができた。会社勤めの人はいいが、自営業者がいかにか検査を受けに行くかが重要。女性の会や寿会の方、保健師が集会所で血圧を測ったり相談をするのは、家から出て話をする場にもなるので、とてもよいと思う。そういうことをもっとやっていただきたいのだが、女性の会や寿会が何をしているか分からないのが現状なので、行政から応援していただいたり、支援をしてほしい。

奥山委員：高校生の時、病気を患い、すべてプラス思考に考えられるようになった。昔は寿命が短かった分、高齢者は病気になる前に亡くなることが多く、病院に入っているということはなかった。寿命が延びたのがいいのか悪いのか分からない。それから、高齢者の一人暮らしが多いということは、祖父・祖母と一緒に住んでいない子どもも増えているということ。子どもの、人への思いやりや心の健康はどうだろうかと思う。学校での出来事も、昔では考えられないようなことが起きている。そういうことも考えてほしい。

小川(禎)委員：清須市に緊急病院や総合病院がまだできていないので、できるだけ健康でいたいと思う。ワークショップの結果は広報に出してもいいくらい。それから、アンケート結果で実態が分かるのだが、20ページ食生活を「改善したい」などあっさりとなんか出てくるので、深めていただくとありがたい。また、適正体重など基礎知識が載っているよと思う。体の調子が悪いとお金がかかるということを考えていくと、健康づくりは、行政に頼むのではなく、自分で考えてやるべきだと思う。個人でできる健康づくりとして、食べた物を6色のペンで手帳に書きこみ、6年間体重を維持しているというのをテレビでやっていた。そういうニュースを紹介してくれるとよい。次に地域でできる健康づくりとして、出前講座がある。もう1つは、行政でやっていた健康づくりが地域へ戻っていった「らくらく体操」。そういうグループに入れば、個人ではなく全体でやれる機会がある。計画では、行政でやること、個人でやること、地域でやることの指針が出てくるといいと思う。

谷川委員：アンケート結果は詳しく載っていてよい。これらをまとめて清須市の課題や特徴を分かるようにしてほしい。従来21計画はつくっても周知されなかったが、ワークショップを行い住民と一緒に作りあげていくことで、住民に身近な計画として策定されるのではないかと思う。

深尾委員：アンケート結果に、「改善したい」と思っている人がいるが、実行するのは難しいと思う。私は毎日体重を測って、記録している。こうした簡単なスモールステップを設

定すれば、実行しようと思うのではないか。例えば行政で食事、体重、運動などの記録表をつくるとやってみようという気になるのではないか。

岡本助言者：健康をどう考えたらいいだろうといつも思っている。なくして初めて分かるのが健康。たばこも吸ってはいけないではなく、どうして吸ってはいけないのか、吸うとどういうことが起こるのか、ということまで具体的に教えてあげることが1つの健康指導であるし、それがパンフレットになる。今、健康に関する情報が氾濫しているので、分かりやすい情報を提供すべき。情報をどのように提供したら分かってくれるかをワークショップ等で皆さんに考えてもらおうとよい。ワークショップで知恵をいただいて、実践していく。それを何回もやってバージョンアップすることで、皆さんの意識付けができる。また、今うつ病の人が多い。いかに心の健康を保つかも健康づくりの1つ。それには声かけが重要。落ち込んでいる人は病院に行かないので、まちの中での対応が必要。計画については、全年代共通の対策プラスそれぞれの年齢層別の対策が必要。それから、確かに検診は怖いのが早期発見でき、早期治療ができる。現状で前立腺がんの受診率が32.7%から19.5%へ落ちているのが、どういう背景があるのか。

事務局：清須市は平成17年度に3町が合併した。1つの自治体は平成17年度からがん検診を実施し、1つの自治体は調査事業として無料で実施した背景があるので、平成17年度は受診率が高くなっている。平成20年度は先ほど説明した通り、少し検診体制が変わったため受診者が減った。すでに血液検査の値によって泌尿器科で管理されている方がいるため若干減ってきているのだと思われる。

岡本助言者：前立腺がんは早く見つければ治るが、症状が出た後が早い。早く見つければ大丈夫だというキャンペーンをやるとよい。

6 その他

- ・次回12月中旬に開催
- ・活動団体ヒアリング調査票返送のお願い（11月12日まで）

以上

会議の経過を記載して、その内容に相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員

関 幹 雄 ㊟

伊 藤 千 里 ㊟

会議の結果	審議に関する事項はなし
問い合わせ先	健康福祉部 健康推進課 052-400-2911 内線4056